

MSVジェネレーション

ぼくたちのぼくたちによるぼくたちのための「ガンプラ革命」

あさのまさひこ

MASAHICO ASANO

太田出版
Ohta Publishing Inc.



MOBILE
SUIT
VARIATION

MSV

GENERATION



CROSS OVER FANZINE 37

模型情報

3

●RV、MSV模型化情報●エルカイル設定資料集●RVF●1
48タンハインのティテールアップ●3Dシャム タンハインの
改造法●P A フィアット500 in ルハン3世●モテルクランプリ
告知●モテラー紀行 白井 今巻●横浜ことも科学館●鳥子のア
ニメみ はークラフィティ●新製品カイト MS-06F他

1984

発行 1984年11月
MS-06F by 石橋謙

Vol.55 **BANDAI**



かの「赤い彗星」と誤認された 「真紅の稲妻」という存在

◀このロコ そしてこの独特な縦長の割型に対し、いまなお思い入れが強い人も多いことだろう。バンダイが発行していた同社新製品情報誌「模型情報」は、通信販売の模型店流通ながらも MSV 最盛期にはなんと10万部という驚くべき発行部数を誇った。その84年3月号の表紙には、MSV シリーズのパッケージには使用されなかった、石橋謙一描き下ろしによるジョニー・ライデン少佐の MS-06R-2 ザクIIのイラストが奪われることに。MSV 内における劇作キャラクターとしてシリーズ展開後期に高い人気を誇ったジョニー・ライデンとタリムゾンレッドに奪られたその愛機は、「赤い彗星」ことシャア・アズナブル大佐のザクヤグルグと各所でたびたび誤認されていた、という設定がじつに秀逸であった



「ガンダム新世紀」の夜明け いよいよ製品化がはじまった MSV

▲▼シリーズ第1弾として製品化されたのは、このとき別格の人気を博した、MS-06R ザクIIの1/144モデル。黒い三連星の名は製品名に冠されていないものの、事実上の黒い三連星専用機だ。小田雅弘製作による1/100フルスクラッチビルドモデルを模したそれは、それまでのノーマルシリーズのガンダムとは一線を画したハードエッジな造形であった。そして同時に多大な衝撃を与えたのが、同機の背面が大きく描かれた石橋謙一の画によるボックスアートの存在であった。下の2点はMS-06K ザクキャノンとYMS-09 プロトタイプダム（共に1/144）の、戦場写真を模したボックスアート。アヴィエーション（航空機）アートの名手たる石橋の筆が冴えまくる！



MS-06R ZAKU II

MOBILE SUIT GUNDAM/MOBILE SUIT VARIATION No.1 MS-06R ZAKU II



MS-06K ZAKUCANNON

MOBILE SUIT GUNDAM/MOBILE SUIT VARIATION No.3 MS-06K ZAKUCANNON



YMS-09 PROTOTYPE DAM

MOBILE SUIT GUNDAM/MOBILE SUIT VARIATION No.3 YMS-09 PROTOTYPE DAM



MS-06M ZAKU MARINE TYPE
MOBILE SUIT GUNBAM/MOBILE SUIT VARIATION No.6 MS-06M ZAKU MARINE TYPE



RG-80 GM CANNON
MOBILE SUIT GUNBAM/MOBILE SUIT VARIATION No.7 RG-80 GM CANNON



MS-06D ZAKU DESERT TYPE
MOBILE SUIT GUNBAM/MOBILE SUIT VARIATION No.8 MS-06D ZAKU DESERT TYPE

「小田雅弘×石橋謙一」という最強タッグの存在

▲▶シリーズ第1弾となったMS-06R ザクIIはバンダイの加藤智と石橋との打ち合わせのみでその構図やシチュエーションが決定されたが、それ以降の製品は、設定製作を担当した小田と石橋が直接やり取りを交わし、どのようなボックスアートを描くべきかという決定が凝らされていった。ここに掲載するMS-06M 水中用ザク、RG-80 ジムキャノン、MS-06D デザートタイプザク、MS-07H グフ飛行試験型（すべて1/144）は、お互いが飛行機マニアである小田と石橋の共通した関心が十二分に生かされた傑作揃い。「パッケージイラストレーション」ではなく「ボックスアート」と称するに相応しい、アート感覚溢れる仕上がりとなっている



MS-07H GOUF FLYING TEST TYPE
MOBILE SUIT GUNBAM/MOBILE SUIT VARIATION No.9 MS-07H GOUF FLYING TEST TYPE

「作画の必要がない」というストロングポイント

◀アニメーションに登場するモビルスーツは「作画して動かす」必要があるため、必然的にディテールが少なめで作画しやすいデザインとなっている。それに対しMSVは「作画の必要がない」ため、密度感の高い兵器的なデザインとすることが可能となった。そのプラスチックモデルは当然ながら兵器感に溢れ、ノーマルシリーズのガンブラしか製作したことなかった年少者たちからすれば「すごい、まるでホンモノみたいだ（まるでMSVという兵器が実在するようだ）」という感覚を抱くに充分なクオリティを有していた（写真はすべて1/144、左上はここにボックスアートを掲載していない、MS-14C ゲルググキャノン）

ザクバリエーションの立体化 そしてMSVの画第2弾も発表

▶▼月刊ホビージャパン別冊「HOW TO BUILD GUNDAM」(81年7月下旬発売)では、小田を中心としたモデラーユニット“ストリームベース”の面々により早くもザクバリエーションの立体化が成し遂げられた。下はテレビマガジンデラックス5『機動戦士ガンダムTV版ストーリーブック2』(81年5月30日発売)で発表された、MSV的なジオン軍側の機体4種。これにてその人気は絶対的なものと化す



Mobile Suits
Zion Mobile Suit

GUNDAM MECHANICS



「とある一冊の書籍」がその後のガンブラの運命を決定付けた

▲アニメ本編にて使用されたフィルムやセル画を1枚も掲載せず、すべて書き下ろしのイラストとインタリジェンスに裏づけられたテキストにてガンダムメカニクスの世界を濃密に描いた歴史的名著とも、月刊OUT 9月号増刊『宇宙開拓者戦士達 GUNDAM CENTURY』(みのり書房/81年8月20日発売)、本家ガンダムの製本家であり、同書籍のSF考証を担当していた松崎健一と、その後「超時空要塞マクロス」で一躍とさの人となる

“スタジオぬえ”の宮武一貴や河森正治が参加し企画制作された本書内の「GUNDAM MECHANICS」にてジオン軍モビルスーツのハード SF 的な開発史が文字化され、その中でザクのバリエーションタイプが明確に設定された。そしてここで発表された文字設定としてのザクバリエーションに大河原のMSV的なデザイン画を当てはめていくことにより、MSVはついに「新たなガンブラ商品企画」としての発掘みを構築するに至った



ザク MS06Aタイプ



REAR STYLE



満を持してデザイン化された
黒い三連星の MS-06R

▲◀GUNDAM CENTURYにて文字版定文化されたMS-06R デクII(黒い3連星の愛用機)は、SFプラモブック1「機動戦士ガンダム REAL TYPE CATALOGUE」(講談社/82年3月5日発売)にていよいよ大河原の手によりそのデザイン画が発表された。この機体は俗に「ゼロロクアール」と呼び親しまれたのだが、0とRは英語読みなのにRにだけなぜか日本読みみたいなのがよくよく考えると謎ではあった



ZAKU
MS-06R TYPE

KUNBO OKAWARA ORIGINAL ILLUSTRATION



**MS-06R 初発表の場は
じつは『機動情報』だった！**

▲「MS-06Rのデザイン画が初公表されたのは、じつは『機動戦艦』82年3月号であった。わずかに数日の差ではあったものの、上で紹介した書籍の“売り”たる描き下ろし画稿を機動戦艦が先に掲載したのにはまづかなく「一大事件」。MSVのプロデューサーを務めた天才編集者・安井尚志が仕掛けた驚くべきギミックであった。そして同時期から安井は八面六臂的な活躍を遂げることとなる



伝説のガンブラ作例集『HOW TO BUILD GUNDAM 2』発刊

▲あまりの超絶作例オンパレードに対し多くの人が驚愕したのと同時に、「ダメだ、オレにはこんなすごいガンブラは作れない……」とガンブラ少年たちに絶望と尊敬感を同時にもたらすことにも繋がったホビージャパン別冊『HOW TO BUILD GUNDAM 2』（82年4月25

日発売）。この焦点をMSVのみに絞って見るならば、やはり注目すべきは小田雅弘の手による1/100 MS-06R ザクIIだ。大河原のデザイン画をただ真似て立体化したのではなく、GUNDAM CENTURYに記述されていた「R型」は大量の燃料を搭載するため通常型のザクよ

りもやや太めに作られていた」という文字設定を踏まえ、さらに、これまで小田が重視してきた「ザクにおけるスタイリングの正解版」を徹底的に追求。この造形作品の形状がバンダイ製1/144 MS-06R ザクIIの「お手本」として活用されたのである



『コミックボンボン』にてついにじまったMSV推し

▲安井がガンブラに関するページの誌面構成等を手掛けた児童漫画誌『コミックボンボン』（講談社）は、極端なガンブラ偏重の編集方針によりピーク時には50万部（！）の発行部数を経ることとなる。そして同誌で安井は用意周到にMSV推しをスタートさせ、83年1月号の「大河原邦男メカニカルシリーズ11」の記事内でついにバンダイからMSVが製品化されることか決定した旨を発表するに至った





▲4 MSV がバンダイから製品化されたのちにおける83年当時の『コミックボンボン』巻頭誌面構成。ここまで来ると、内容的にも作例のクオリティ的にも模型専門誌よりも明らかに高い。この時代がいかに「狂乱的」であったかが伺える

こんなにガンプラに対して濃い児童漫画誌があってよいのか!?

▶児童漫画誌の巻頭グラビアにて、模型専門誌でも行わぬようなあまりにもマニアックすぎる「MS-06R-2のリメイク作例」が繰り返し掲載されることの意味はいったどこにあったのか? 冷静になって考えれば考えるほど、「やりすぎ」としか思えない。そして下は82年3月にバンダイから発売になった模型情報別冊『MSV バリエーションハンドブック1』と6月に発売になった『同2』。児童漫画誌であるコミックボンボンの購買層とは重ならない。主に『模型情報』を通じてMSV関連情報を手に入れたハイティーン層からすれば、こちらこそが「MSVのバイブル」たる重要な設定資料集として機能していた



MSVにおけるもうひとつの象徴 「フルアーマーガンダム」

▶▼ MSVシリーズはそもそも大河原によるザクバリエーションがスタート地点だったこともあり、ジオン軍の機体を中心に構成されていたが、やはり年少者は主人公機群とした地球連邦軍側のガンダムタイプMSのMSVを欲していた。ただし、ノーマルガンダムとはほとんどデザイン的に違いのないRX-78-1プロトタイプガンダムのみにその役割をすべて任せるのは無理があり、そこで急遽投入されたのがFA-78-1ガンダムフルアーマータイプ（略称フルアーマーガンダム）であった。そうした明確な役割を与えられ投入された同機は、空想当然のように1/144、1/100、1/60の3ラインすべてにおいて製品化されることとなる



FA-78-1 GUNDAM FULLARMOR TYPE
DESIGNED BY SHINJI KAWABATA / ILLUSTRATION BY T. T. T. / BANDAI



RX-78-1 PROTOTYPE GUNDAM



当時のノリを体現して見せた 「1/30 MS-06R」の正体

◀『模型情報』63年11号にて詳細が発表された、全高57cm、当時価格1万円にも及ぶ1/30メガリミテッドバブルキャストモデルのMS-06R。しかしその正体は発売先地スチロール成型品で、一般的なプラスチックモデル製作のテクニックが一切応用できないシロモノであった。それでも当時MSVが体現していた「ノリ」を読み解くプロダクトとして、ある意味において貴重なアイテムと言える





『めぐりあい宇宙』編の続編!? 『プラモ狂四郎』の果たした役割

▲4 『コミックボンボン』82年2月号からはいよいよ主にガンブラを題材にした連載漫画『プラモ狂四郎』がスタート、新号の表紙を飾っていくことに。原作をタラト団（安井キートン・ベース）、作画をやまと虹一が担当した同作品は、プラモシミュレーションマシンという架空のハイテクメカを使い、自分が製作したガンブラなどのプラスチックモデルを本物のメカながらに仮想空間でライバルたちと戦わせることができる という、言わば80年代版『ガンダムビルドファイターズ』とも言える存在であった。このプラモ狂四郎の快走がバンダイのMSVシリーズとシンクロしていった事実は忘れてならない



▲『プラモ狂四郎』とのコラボレーションによるバンダイのMSV 広告（83年9月号掲載）。コミックボンボンとバンダイのMSV シリーズの双方が、このとき最盛期を迎えていた



▲82年8月号の巻頭グラビアでは、『プラモ狂四郎』作画担当のやまとが静岡県清水市（現静岡清水区）のバンダイ模型静岡工場（いま現在におけるバンダイ ホビー事業部 静岡ホビーセンター）を訪ね、バンダイの加藤が、東京からやって来たやまとを出迎える という演出が成された。いま観ると限りなく牧歌的、というアカットファミリー現場の空気が読み取れる



MS-06R-2 ZAKU II



JOHNNY RIDDEN'S MS-06R-2 ZAKU II



後期MSVを牽引した「真紅の稲妻」、ジョニー・ライデン少佐

▲そもそも人気が高く、MSVシリーズ商品化へのトリガー役を果たした機体であるMS-06R ザクIIの脚に大型フレアを装着し、メインカラーにタリムズンレッドを、アサルトカラーに黒を、アクセントカラーに黄色を用いた「エースパイロット機体」を全面的に打ち出したジョニー・ライデン少佐の愛機MS-06R-2 ザクII。MSVシリーズ第1弾であった1/144 MS-06Rの製品名に「黒い三連星使用機」という言葉が添えられている

かったのと対照的に、1/144、1/100、1/60という3ラインすべてで製品化されたこの機体には、製品名内に「ジョニー・ライデン少佐機」とはっきり明記されていたことから後期MSV がある意味において「ジョニー・ライデン人気祭り」に陥りつつあった様子も読み取れよう。実際に、映像＝アニメーションが存在せぬMSVという企画において、もっとも高い知名度を有したキャラクターであった



MSV制作キャラクターカタログ その裏に見える送り手側の苦悩

◀シリーズ展開後期の一時期MSV 製品内に封入されていた、製品カタログを兼ねたMSV 登場キャラクター（エースパイロット）の紹介リーフレット。上記したようにこの時期はすでに「MSV」という商品企画には映像＝アニメーションが存在しない」という根本的な問題が徐々に重くのしかかりはじめてきており、こうしたデコ入れ企画＝リーフレットの封入は、「パイロットとその搭乗機を組み合わせることで想像を膨らませ、そうした楽しみ方によりMSV により一層興味を抱いてほしい」というメッセージであったのではないかと

「ノーマルガンダムシリーズのリメイク」という裏ワサの展開

▶製品化に値するようなデザインのMSV、つまり「弾」が切れかかってきたことにより、MSVチームはついに裏ワサ的な手法を脱しはじめた。たとえばこの1/144 MS-06F ザクII マインレイヤーは、マインレイヤー=地雷散布用パックではなく、製品内に付属している（いや、意図的に付属させた）過激型ランドセルを背中に装着すれば、MSVクオリティーのノーマルザクが驚改造で手に入る、という首を振りに据えた製品。ある意味本末転倒とも言えるのだが、初期に製品化されたノーマルシリーズのガンダムは、このとき〜84年には「ぜい MSV クオリティーにてリメイクしてほしい」と思わせる存在と化していたのだ



MS-06F ZAKU II MINE LAYER



FA-78-1 GUNDAM FULL ARMOR TYPE MOBILE SUIT VARIATION NO.26

増加装甲はある意味オマケ!? その中身は新規設計のガンダム

◀80年7月に発売された1/100ノーマルガンダムは「足首と膝関節が可動しない」「内蔵しているコア・ファイターを扱う腕の装甲下半分が存在しない」「子供向けに、スプリングでミサイルが飛び出すオリジナル武器のロケット砲が付属している」という残念な仕様であったため、MSVでの1/100 FA-78-1ガンダムフルアーマータイプは「完全新規設計の1/100ノーマルガンダムに増加装甲パーツを装着していく」というスタイルが採用された。つまり上記したザク マインレイヤーと同様に、増加装甲を装着しなければ MSV クオリティーの1/100ノーマルガンダムにて組み立てることが可能になったというわけだ

かのジョニー・ライデン少佐が高機動型ゲルググに乗った理由

▶MSVチームは高い人気を持ったジョニー・ライデンに対し、「大戦末期にMS-06-R2からMS-14B 高機動型ゲルググへ乗り替えた」という設定を設けた。その結果、基本的にはノーマルゲルググに大型ランドセルを装着しただけの高機動型ゲルググを製品化することのできる環境が整い、ノーマルゲルググゲルググキャンオン、高機動型ゲルググの3タイプコンバージョンキットが誕生することとなったのだ。同製品は1/144のMSVシリーズにおいて最高の完成度を誇る突出したプロダクトと化したのと同時に、“MSVという企画そのものの自体的完成形”を体現したメモリアル的逸品としていまなお高い人気を誇り続けている



JOHNNY RYDEN'S MS-14B HIGH MANEUVER TYPE GERGG



「……コレって OK なのかな？」 いよいよ“速走”しはじめたMSV

▲右のMSN-01 高機動試作型ザクは年少者からすると「なんじゃこりゃ?」なデザインであった反面、ハード SF マニアには非常に受けがよい機体であった(その理由は本文を参照されたい)。ただし、右下のRX-77-4 ガンキャノンIIは「どう考えてもこんな機体は存在し得なかったはず」と思える設定に基づく存在であり、さらに、『機動戦記』83年3月号裏表紙ではドズル専用ザクな機体のデザイン画が発表されるに際し、「MSVではガンダム本編に登場するキャラクターとの接触は避けよう」というのが基本ルールであったわけだが、いよいよそうした定例までがほろろはじめてしまった様子が見て取れた。



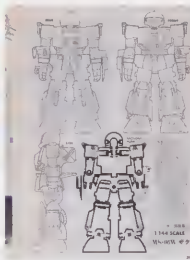
講談社発信によるMSVの集大成 『MSVバリエーション』1〜3巻刊

▲84年3月には、講談社のポケット百科シリーズとして『機動戦記ガンダム モビルスーツバリエーション テクニカル&ヒストリー』1ザク編、2ジオン軍MS・MA編、3連邦軍編の3冊が発売に。ポケット百科シリーズの構成を複数手がけていた石川孝一と小田の共同の構成による本書は、これまでに発表されたデザイン画と文字設定を1冊にまとめ直しつつ、書き下ろしを描き下ろしのゼロクアールパイロット用MSテクニカルマニュアルも掲載。MSVシリーズのボックスアートや『コミックボンボン』の作例も掲載され、講談社系出版物で発表されたMSVに関するそのすべてをまとめた集大成的な書籍と化した。





▲「コミックボンボン」84年9月号では、雑誌の扉として表紙を飾り続けてきた「プラモ狂四郎」が編成へ進み、「ラジコンキッド」のイラストが大判で掲載されることに。なんとも分かりやすい“主役交代劇”だ



ついに訪れたカウントダウン 「MSV という革命」終焉の刻

◀製品化に便するようMSVのデザインが完全に弾切れを起こすと同時に、MSVを含むリアルロボットアニメモデル全体の売り上げが急激に落ち込みはじめた84年夏、「模型情報」7月号には“ボツ企画集①”と銘打って1/144 MS-06W ズク（作業用ズク）の設計図面が掲載された（ちなみにその後②の掲載はなし）。設計が完全に完了しておりながら、金型製作～製品が発売に至らなかった理由は推して知るべし。「MSV ならば何を製品化しても売れる」という時代は、このときすでに終わっていたというわけだ。スレッガー・中尉の台詞風にたとえるならば、「悲しいけどこれ、現実なのよね」と言ったところだろうか



バンダイにおける「MSV 系出版物」の締め括り

▲◀「模型情報」84年6月号は1冊すべてがMSV特集とされ、MS バリエーションハンドブック第1集～第3集に収録できなかった。MSV 最終期に掲載された MS-06R バリエーションのデザイン画や文字設定等を掲載。同号の奥付には“模型情報6月号・特別編集／モビルスーツバリエーションハンドブック第四集”と明記されており、つまりは「これを単体で発売することがすでに不可能な状況にあった」ことが窺見された



シリーズ最終作「1/100 パーフェクトガンダム」が意味したものの

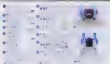
▲『機型情報』84年11月号は当時バンダイがシリーズ展開していた製品のカタログ特集であったため、B5サイズに変更された明窓の見聞さを使用し広告的なMSVカタログが掲載された。中でも大きくフィーチャーさ

れていたのが、シリーズ最終作として12月に発売が決定していた1/100 パーフェクトガンダム。言うまでもなく「プラモ兵四郎」の主役機であり、MSVを支え続けてくれた年少者たちへの最後のサービスであった



スバリ揃ったハイコンプリートモデル/
君のお部屋にピッタリのハイセンスモデル。

※本誌に掲載されている価格は、税別価格です。実際の販売価格は、各店舗の店頭価格为准です。また、各店舗の在庫状況は、お問い合わせください。



MSV が組み込まれていた「もうひとつのバンダイ製シリーズ」

▲同じ『機型情報』84年11月号に掲載された、当時バンダイがシリーズ展開していたプラスチック製塗装済み完成品シリーズ『ハイコンプリートモデル』のカタログ。その中にFA-78-1 ガンダムフルアーマータイプ、

MS-06R ザクII、YMS-09 プロトタイプドム、MS-14C グルグキャノンの4種（すべて1/144）が含まれていたが、このうちMS-06R-2 ザクII ジョニー・ライデン少佐機もラインナップされることとなった



『機動戦士Zガンダム』にMSVが登場した衝撃

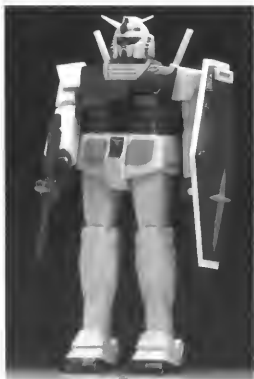
▲84年をもってMSGがシリーズ展開を終え、85年3月2日からは『機動戦士ガンダム』の放映がスタート。しかしここで驚くべき事象が起きた。第10話「両面」(5月4日放映)から第18話「上りたれどミライ」(7月6日放映)にかけて、Zガンダム劇中にMSGが登場したのだ。ここに掲載するのはアニメ用に投資されたコストだ。MSG幹部(ガンタクトH、グフ 飛行試験機、ゼクサン、TINコード)が、残念ながらもベキウナへの活躍を見せたのはグフ飛行試験機とマリンハイザック(見た目は水中中型の空母)の二台だ。格闘と飛行設定が異なる。MSGでZガンダムに登場したキャラクターを見出すことが難しく事象が生じてしまった。



物語の終わりの象徴「Zガンダム版MSV」

◆▲▶右は、生記したようになかなかの活躍を見せてくれたダクサーン試験船とマリニハイツのZガンダム登場の劇場シーン。そしてバンダイからは、機体格闘が大幅に充實され新派ガンダム劇に大変革された「Zガンダム劇場版」のMSVシリーズが次々と発売されるに至る。プラステックモデル車本体はMSVシリーズそのものながら、新たなボックスアートはZガンダムシリーズをテストを繰り返したため、かつてのMSVシリーズのボックスアートとはイメージが真逆の存在としてしる。MSVマニアであった筆者的にこの傾向を危惧するにほなほな状況であった。





記念すべきガンプラ初となる製品、1/144 ガンダムのパッケージ天面と完成見本。ボックスアート（パッケージイラストレーション）に搭乗パイロットの設定画がフィーチャーされていたのが斬新だった



MSV誕生の礎となった『アニメージュ』（徳間書店）81年4月号の、特集「いまホビーの王様はアニメプラモだ!!」。1/100のガンキャノンとシャア専用ゲルググに関しては、木型模型（試作模型）の写真をフライング掲載したのがいかにも安井的



Masaru Okawara Original Illustration

テレビマガジンデラックス6『機動戦士ガンダムTV版ストーリーブック3』（講談社）に掲載された、地球連邦軍側のMSV的な機体。物語の設定上、連邦軍側にバリエーション機が多数存在したとは論理的にも物理的にも考えにくく、その結果、このようなアニメ本編に登場した連邦軍側MSと酷似したバリエーション機のみが描かれたわけだが、逆にそのことが「これを手がけたスタッフたちはちゃんと“わかっている”」という信用に繋がった



ロマンアルバムやガンダムセンチュリーの影響もれがらだが、『機動戦士ガンダムSFワールド』（81年8月発売／講談社）もこの時代を検証する際には欠かせぬ1冊。巻頭カラーでは「大河原邦男メカ・デザインの世界」と銘打ち大河原によるリアルタイプMSのイラストを大判にて掲載した



このガンダム、君には作れまい

このムック、資料の役には一切たない。

本編の引き移しばかりが「アニメ・ムック」ではないと覚悟を決めて、セル画やフィルム複写の一枚も使わずに、僕らはこのムックを作った。

新作カラーイラスト41点でジオン対連邦の全戦史を描き、二色イラスト73点で、

ザク、ガンダムのプロトタイプからソーラ・レイ・システム（コロニー改造型

二酸化炭素レーザー）までの全メカを徹底追求。さらにガンダム・サイ

エンスと題してオニールの宇宙植民計画や実在のガンタンク——ビ

ートル、実在の強化装甲艦——ハーディマンを紹介。キャラフ

エチ華道の入浴コミクス、ホワイトベース・ライブはオールカラ

ー16頁。さらにさらに白井佳夫氏司会による21頁座談会等々。

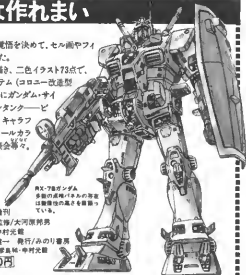
SFモデルファン・マニア推賞の試金石—*GUNDAM CENTURY* 只今、好評発売中



ビートル
超人モビル・マ
ニエレーター、
半電子半空想
雑誌の一冊とし
て1981年に製作。

月刊OUT増刊
メカニック監修/大河原邦男
美術監修/中村光範
編集/松崎重一 発行/みのり書房
ポストカード/松崎重一・中村光範

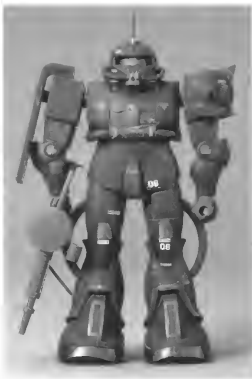
定価1,800円



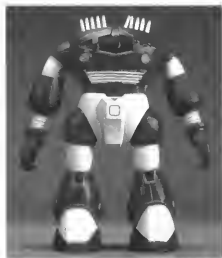
MS-X78ガンダム
多数の武装・バネの存在
は機体性能の高さを物語っ
ている。

宇宙翔ける
戦士達 **GUNDAM CENTURY**

『月刊ホビー・ジャパン』（ホビー・ジャパン）81年10月号に掲載された、みのり書房出稿によるガンダムセンチュリーの広告（モノクロ1/2ページ）。河森によるアクセスパネルハッチ開放状態版ガンダムのイラストを描き、「このガンダム、君には作れまい」とモデラーを悩ませたキャッチコピーが秀逸だった



1/100 リアルタイプシリーズにおける、MS-06 リアルタイプ・ザクのパッケージ天面と、その完成見本。当時のガンブラファンからは結果的に手厳しい評価を受けたわけだが、リリース時期さえ見まちがわなければ多くの年少者たちから重宝されたであらうシリーズと言えよう



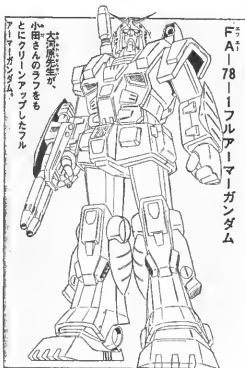
「まさかこんなまで製品化されるなんて……」の極み【その1】。"アッグシリーズ" こと水陸両用特務 MS のアッグ、アッグガイ、ジュアッグ、ゾゴック。ジュアッグこそ 1/144 のみであったが、他の3機は 1/144 と 1/100 の両方にて製品化された。



「まさかこんなもので製品化されるなんて……」の極み【その2】、
1/1200 ガウ攻撃空母のパッケージ天面と1/550 アザムの完成見本。
泡沫的アイテムではあるが、じつはどちらも傑作キットなのが悩ましい
(?)。ガウのボックスアートは、のちにMSVシリーズのボックスア
ートを多数手がけることになる石橋謙一が担当した

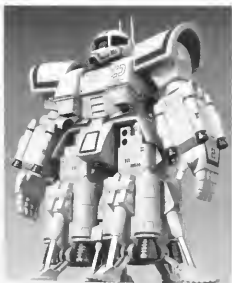
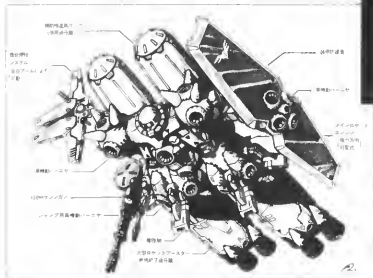


MSV シリーズ第1作目、1/144 MS-06R ザク II。高密度な大河原のデザイン画を正確にトレースしつつも、モデルのバランスは『HOW TO BUILD GUNDAM 2』（ホビージャパン）に掲載された小田雅弘作1/100フルスクラッチビルドモデルを踏襲していることがわかる（とくに頭部形状に注目！）



『コミックボンボン』85年2月号に掲載された、やまと虹一による「パーフェクトガンダム」のデザイン画と、小田雅弘による「ガンダムフルアーマーパターン」のデザイン画、そして大原原による「フルアーマーガンダム」のデザイン画。こうした「デザインリレー」の末にフルアーマーガンダムは完成を見た。

宇宙型モビルスーツ “ザク”



ロマンアルバム・エクストラ42『機動戦士ガンダム The Motion Picture』（徳間書店）の「虚構空間の機動戦士ガンダム」内で発表された河津正治デザインによる宇宙型ザクと、MSVの1/144 MSN-01 高速機動型ザクの完成見本。宇宙型ザクは背面に装着された補助推進用燃料タンクと大型ロケットブースター（共に燃料が尽きた後に分離する）の存在によりシルエットが異なっているが、それらを外した姿は「タコ足ザク」はぼろのものである



1/144 MS-14 シャア専用ゲルググ（81年6月発売）と、1/144 MS-14B ジョニー・ライデン少佐用高機動型ゲルググ（84年9月発売）。1/144 MS-14Bは「1/144 MS-14の実質的リメイク作」とも言える存在だが、3年3ヶ月という年月のあいだにガンブラの企画設計開発能力がここまで進化したという旨を象徴する製品となった





コミックボンボン緊急増刊『機動戦士Zガンダムを10倍楽しむ本』（講談社）内における、「ジオン軍モビルスーツ系統図」。Zガンダムの書籍内にMSVやMS-Xを掲載することで、『ガンダムワールド（MSの進化系統樹）』はいま現在ここまで拡充されている」という旨を詳細に紹介させてみた



MSV GENERATIONS

MOBILE SUIT VARIATION ALL LINEUP

No.1-No.34

※価格は税抜きです
※掲載の情報はP.230に準じています

MSV全ラインナップ34

No.1

1/144 MS-06R
ザクⅡ

発売：1983年3月

価格：500円

ボックスアート：石橋謙一



MS-06R ZAKU II

MOBILE SUIT GUNDAM/MOBILE SUIT VARIATION No.1 MS-06R ZAKU II

NO.3

1/144 YMS-09
プロトタイプドム



発売：1983年4月
価格：600円
ボックスアート：石橋謙一

NO.2

1/144 MS-06K
ザクキャノン



発売：1983年4月
価格：500円
ボックスアート：石橋謙一

NO.5

1/144 RGC-80
ジムキャノン



発売：1983年5月
価格：400円
ボックスアート：石橋謙一

NO.4

1/144 MS-06D
デザートタイプザク



発売：1983年5月
価格：500円
ボックスアート：石橋謙一

NO.6

1/144 MS-06M
水中型ザク

発売：1983年6月

価格：500円

ボックスアート：石橋謙一



MS-06M ZAKU MARINE TYPE

MOBILE SUIT GUNDAM: MOBILE SUIT VARIATION No. 6 MS-06M ZAKU MARINE TYPE

NO.7

1/144 MS-14C
ゲルググキャノン

発売：1983年6月

価格：600円

ボックスアート：石橋謙一



MS-14C GELGOOG CANNON

MOBILE SUIT GUNDAM: MOBILE SUIT VARIATION No. 7 MS-14C GELGOOG CANNON

NO.9

1/144 MS-07H
グフ飛行試験型



発売：1983年7月
価格：500円
ボックスアート：石機謙一

NO.8

1/144 RX-78-1
プロトタイプガンダム



発売：1983年6月
価格：400円
ボックスアート：石機謙一

NO.10

1/144 FA-78-1
ガンダムフルアーマータイプ

発売：1983年7月
価格：400円
ボックスアート：石機謙一



FA-78-1 GUNDAM FULLARMOR TYPE
MOBILE SUIT GUNDAM-MOBILE SUIT VARIATION No.10 FA-78-1 GUNDAM FULL ARMOR TYPE

NO.11

1/144 MS-06E
ザク強行偵察型

発売：1983年8月
価格：500円
ボックスアート：石機謙一



MS-06E ZAKU RECON

MOBILE SUIT GUNDAM MOBILE SUIT VARIATION No.11 MS-06E ZAKU RECONNAISSANCE

NO.13

1/60 MS-14C
ゲルググキャノン



発売：1983年9月
価格：3,000円
ボックスアート：上田信

NO.12

1/144 MS-06V
ザクタンク



MS-06V ZAKU TANK

発売：1983年9月
価格：600円
ボックスアート：石機謙一

NO.15

1/144 YMS-09
局地戦闘型ドム



発売：1983年11月
価格：600円
ボックスアート：増尾隆幸

NO.14

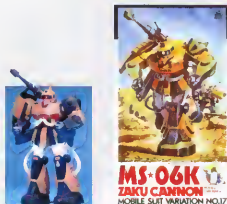
1/100 MS-06R
ザクⅡ シン・マツナガ中尉機



発売：1983年9月
価格：1,000円
ボックスアート：上田信

NO.17

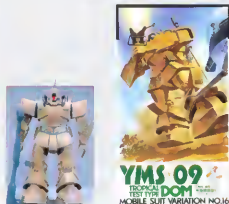
1/100 MS-06K
ザクキャノン



発売：1983年10月
価格：1,000円
ボックスアート：上田信

NO.16

1/100 YMS-09
局地戦闘型ドム



発売：1983年11月
価格：1,000円
ボックスアート：石橋謙一

NO.18

1/60 MS-06R
ザクⅡ 黒い三連星使用機

発売：1983年10月
価格：2,500円
ボックスアート：石橋謙一



MS-06R MOBILE SUIT VARIATION ZAKU II



NO.20

1/100 YMS-09
プロトタイプドム



YMS 09
PROTOTYPE DOM
MOBILE SUIT VARIATION NO.20

発売：1983年12月
価格：1,000円
ボックスアート：長谷川政幸



NO.19

1/60 FA-78-1
ガンダムフルアーマータイプ



発売：1983年10月
価格：2,200円
ボックスアート：上田信



NO.22

1/144 RGM-79
ジムスナイパーカスタム



RGM-79 GM SNIPER CUSTOM

発売：1984年1月
価格：400円
ボックスアート：上田信

NO.21

1/60 MS-06R-2
ザクⅡ ジョニー・ライデン少佐機



発売：1983年12月
価格：2,500円
ボックスアート：石機謙一

NO.23

1/144 MS-06R-2
ザクⅡ ジョニー・ライデン少佐機

発売：1984年2月
価格：600円
ボックスアート：石機謙一



JOHNNY RIDDEN'S MS-06R-2 ZAKU II

NO.25

1/144 MS-06F
ザクⅡ マインレイヤー



MS-06F ZAKU MINE LAYER

発売：1984年3月
価格：400円
ボックスアート：石横謙一

NO.24

1/144 MS-06E-3
ザクフリッパー



MS-06E-3 ZAKU FLIPPER

発売：1984年3月
価格：500円
ボックスアート：石横謙一

NO.27

1/144 MSN-01
高機動試験型ザク



PSYCHOIMPACT SYSTEM ZAKU MSN-01

発売：1984年5月
価格：600円
ボックスアート：石横謙一

NO.26

1/100 FA-78-1
ガンダムフルアーマータイプ



FA-78-1
GUNDAM FULLARMOR TYPE
MOBILE SUIT VARIATION NO.26

発売：1984年4月
価格：1,000円
ボックスアート：石横謙一

NO.28

1/144 RX-77-4 ガンキャノンII

発売：1984年5月
価格：500円
ボックスアート：石橋謙一



RX-77-4 GUNCANNON-II

MOBILE SUIT GUNDAM MOBILE SUIT REBORN NO.18 RX-77-4 GUNCANNON II ZELLAMORE TYPE

NO.30

1/144 パーフェクトガンダム



発売：1984年6月
価格：600円
ボックスアート：石橋謙一

NO.29

1/144 MS-06Z Zタイプザク



発売：1984年6月
価格：600円
ボックスアート：石橋謙一

No.31

1/250 MSN-02
パーフェクトジオング

発売：1984年7月

価格：500円

ボックスアート：石横謙一



PSYCHOHIMNI SYSTEM
PERFECT ZIONG MSN-02
MOBILE SUIT VARIATION MODEL 1/250 MSN-02 PERFECT ZIONG

No.32

1/144 MS-14B
ジョニー・ライデン少佐用
高機動型ゲルググ

発売：1984年9月

価格：800円

ボックスアート：石横謙一



JOHNNY
RIDEN'S **MS-14B GELGOOG**
MOBILE SUIT VARIATION MODEL 1/144 MS-14B GELGOOG

NO.33

1/100 MS-06R-2

ザクⅡ ジョニー・ライデン少佐機

発売：1984年9月
ボックスアート：上田信
価格：1,200円



MS-06R-2 
JOHNNY RIDDEN'S ZAKU-II 1/100 SCALE
MOBILE SUIT VARIATION NO.33

NO.34

1/100

パーフェクトガンダム

発売：1984年12月
価格：1,400円
ボックスアート：石橋謙一



PERFECT GUNDAM
RX-78 MOBILE SUIT
MOBILE SUIT VARIATION NO.34

Copyright © 2007 by OHTA Publishing Inc.

MASAHIKO ASANO

OHTA Publishing Inc.



msv

MOBILE SUIT VARIATION



GENERATIONS

DISV MOBILE SUIT VARIATION
GENERATIONS

DISV ジェネレーション

ぼくたちのぼくたちによる
ぼくたちのための「ガン普拉革命」



あさのまさひこ

太田出版

MOBILE
SUIT
VARIATION

msv
GENERATIONS

MSVジェネレーション

ぼくたちのぼくたちによるぼくたちのための「ガンブラ革命」

あさのまさひこ

MASAHIKO ASANO

あの夏の村々から
じつに35年が経過した現在
初めて紐解かれる MSVとは
何だったのか というドキュメント

あれは確実に「事件」だった。

バンダイMSVプラステックモデル
完成品とボックスアート
完全収録保存版!

太田出版
Ohta Publishing Inc.



9784778316235



1920076027000

ISBN978-4 7783-1623-5

C0076 ¥2700E

定価 本体2700円+税)

太田出版



モビルスーツバリエーション、その頭文字を取って「MSV(エム
 エスブイ)」と命名されたこのプラスチックモデルオンリー主導
 型企画は、数奇な運命を辿りつつ83、84年にかけて、大ブームを
 巻き起こすに至る。バックボーンとなる映像作品を持たず、主に
 モビルスーツのデザイン画と文字設定(機体解説と戦記)だけで
 展開された脆弱な企画が日本全国の小学生、大学生に圧倒的な支
 持を得たというのは、言うなれば、世にも希な「大事件」であった
 (中略)本書はその「事件としてのMSV」を、なるだけ過大評
 価することなく、同時になるだけ矮小化することなく、可能な限
 り客観的に書き綴ったドキュメントである。

□□□□プロローグ 1

MSV MOBILE SUIT VARIATION GENERATIONS

MSVジェネレーション

ぼくたちのぼくたちによるぼくたちのための「ガンブラ革命」

あさのまさひこ

MASAHIKO ASANO



太田出版

ONTA Publishing Inc.



MOBILE SUIT VARIATION

MSV

GENE



9784778316235

ISBN978-4-7783-1623-5

C0076 ¥2700E

定価(本体2700円+税)

太田出版



1920076027000

MSV MOBILE SUIT VARIATION GENERATIONS

MSV MOBILE SUIT VARIATION
GENERATIONS

MSV ジェネレーション

ぼくたちのぼくたちによる
ぼくたちのための「ガンブラ革命」



あさのまさひこ

太田出版